

沖縄キリスト教学院大学FD委員会  
(編・著)

2012年度 前期

# 学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

2012

## 巻頭言

### 2012年度 前期 学生による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

学長 中原 俊明

2012年度前期の授業評価の結果が本報告書にまとめられた。貴重な時間とエネルギーを割き、この任務を遂行された委員各位に改めて感謝申し上げたい。

授業評価は、学生の側から教員に対する部分（設問 1-10）と学生自身による自己評価の部分（設問 11-17）に大別される。17項目全体の15項目で5段階評価の4以上となっていて、好反応が看取される。特に、教師の授業への熱意や授業の準備への肯定的評価が90%台で、すこぶる高いのが注目される。反面で、学生側の状況として、シラバス参照の有無や予習復習時間では、かなり数値が下がっているのが、今後課題を残していると思われる。設問 16の「全体的評価」においても、4と5を併せて約80%が「好意的な評価」を示しているが、そこに本学全体の教育の現状と成果が集約されている。

本学では、2017年度に予定された認証評価という課題が視野に入りつつあるが、近時の教育行政、教育政策の流れをみると、「主体的に学び、考え、行動する人材を育成する大学教育への転換」（「社会の期待に応える教育改革の推進」平成 24/6/4/文部科学大臣・平野博文）（私大協資料集、平 24-10-26, 132 頁）が、強調されている。また建学の精神の重要さもしばしば言及されている。この背景のもと、学生たちが授業で学び、肯定的に言及したトピックとして、キリスト教や宗教一般、沖縄の現状（pp.1-2）、戦争と平和（p.3）、黒人の歴史と音楽、世界の悲惨な現状（p.20）、英語で学ぶ沖縄の文化と歴史（p.21）、NGO 団体や珊瑚舎スコーレの学び（p.23）などがあり、彼らの問題意識にポジティブな印象を受けた。

学生たちには、真に、主体的に学び、考え、行動する人材として育ててほしい、と願ってやまない。

沖縄キリスト教学院大学

FD委員会委員

(2012年度 前期)

中原 俊 明 (委員長・学長)

金 永 秀 (委員・人文学部長)

A. David Ulvog (委員・英語コミュニケーション学科長)

金城 繁 正 (委員・企画推進課課長代行)

執筆者

北 原 秋 一 (英語コミュニケーション学科 特任教授)

沖縄キリスト教学院大学

2012年度 前期

学生による授業評価報告書

## 第1章

# 学生による授業評価概要

## はじめに

2012年7月に、学生による授業評価アンケートを実施した。すべての開講科目クラスを対象とした。ただし、卒業研究については集計から除外した。

全83科目、110クラスについて分析した。分析に投与された評価票は2739件であった。評価は5段階法を採用しており、1点が最低点、5点が最高点の5段階評価となっている。「1」～「5」を1点～5点に換算し、全データを一括して設問項目ごとに、平均値、標準偏差などの基本統計量を算出した。ついで評価段階ごとの人数の分布を調べた。結果は以下の表およびグラフに掲げた通りである。表中に欠損値（システム欠損値）とあるのは無回答者の数である。

### 1 学生による授業評価の概要

以下に、設問毎の平均値等を掲げる。

記述統計量<sup>a</sup>

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	2729	1	5	4.66	.648
Q2成績評価方法	2730	1	5	4.57	.757
Q3の熱意	2733	1	5	4.71	.627
Q4わかりやすい	2731	1	5	4.45	.898
Q5準備よい	2734	1	5	4.62	.725
Q6理解興味の工夫	2733	1	5	4.53	.805
Q7時間どおり	2733	1	5	4.68	.671
Q8質問の機会	2731	1	5	4.55	.800
Q9授業妨害へ対処	2730	1	5	4.49	.793
Q10薦めたい	2732	1	5	4.47	.882
Q11熱意を持って参加	2732	1	5	4.42	.836
Q12シラバス参考	2729	1	5	4.15	1.046
Q13授業を中座しない	2734	1	5	4.45	.802
Q14遅刻欠席ない	2721	1	5	4.34	.941
Q15予習復習時間	2573	1	5	2.09	1.115
Q16全体的評価	2685	0	5	4.18	1.091
Q17別の科目も受講したい	2599	1	5	4.37	.994

全17項目中、16項目で4以上の結果である。これらの項目について、本学の教育は一応及第ということであろう。

「4」に満たなかった項目は、「予習復習時間」であった。

評価の散らばりの大きかった（1.000以上）、すなわち評価の個人差が大きい項目は、「シラバス参考」「予習復習時間」「全体的評価」の3つの項目であった。

### 2 評価段階ごとの分析

評価ランク毎の度数分布を調べ、前節の結果分析をより精密に検討する。比率の表記

は少数点第一位を四捨五入した形で示す。また、欠損値を除いた有効パーセントで示す。

Q1「授業の目的」は、「5」評価の比率が75%となり、前回(70%)に比べても良好な動向である。この項目は「講義要項」のシラバスに明記されているが、確認の意味を含め、シラバスで確認するよう受講生に注意を喚起する必要がある。なお、「1」および「2」評価の比率を合算すると1%程度である

Q2「成績評価の方法」は、「5」評価が70%であり、良好だと考えられる。ちなみにこの「5」評価と「4」評価を合算すると89%となる。成績評価の方法については、「講義要項」のシラバスに明記されており、クラスで取り立てて説明を要しないとも考えられる。周知の徹底が必要である。「1」「2」評価を合算すると2%ほどになる。

Q3の先生の授業への熱意に対する評価は「5」段階が79%となっている。「4」評価(14%)と合算すれば93%となる。学生は教員の授業への熱意を高く評価している。

Q4「授業のわかりやすさ」については前回(59%)から66%と「5」の評価をあげている。なお、「4」、「5」評価を併せると84%ほどになる。分かりやすさの点では、かなり満足度が高いようである。ただし「1」と「2」評価を併せた比率が5%あり若干不満がみられる。

Q5「準備がよい」については「5」評価の比率は約74%と前回(70%)に比し評価を高めている。「4」評価を加えると90%もの受講生が教員の授業の準備のよさを認めている。すなわち教材研究が十分になされていることを示唆するものであろう。「1」と「2」を合算した比率は2%と前回(4%)に比し低下している。

Q6「理解興味の工夫」は、約68%の受講生が「5」と評価している。どのような創意工夫であるかについては第3章の「自由記述」の評価を参照されたい。「1」「2」評価を合算すると3%になり前回より低下している。

Q7講義が「時間通りに始まり、時間通りに終わる」というのはごく当たり前のことと考えられる。しかしながら講義内容の「区切り」の都合で終了チャイムを無視することもまた日常茶飯事である。学生たちの評価は「5」が約77%、「4」評価が約15%である。当然の約束事として時間通りに始まり時間通りに終わることは議論の余地がない。しかし、約2%の受講生(「1」と「2」評価の合算)が不満を表明していることに留意しなければならない。

Q8「質問の機会」があるかどうかについては良好な評価である。70%の受講生が「5」の評価をしている。「4」評価と合算すれば88%である。「1」および「2」の評価を併せた比率は約3%である。

Q9「授業妨害への対処」については、教員はかなり適切な対処をしていると思われる。「5」評価の比率は65%である。ここでいう授業妨害とは授業中における私語、ケータイの着信音、メールの送受信、立ち歩き、居眠り等がある。この評価項目は授業運営のうち「管理機能」に属する。受講生を授業に集中させるための教員の力量が試さ

れている、と考えられる。「1」評価と「2」評価を合算すると2%になる。

Q10「薦めたい」とは、「この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するように進めたい」ということを意味する。「5」評価の比率は前回(61%)より上昇し67%である。「4」評価が19%ある。「1」評価と「2」評価を合算した比率は前回より2%ほど低下し4%となっている。

Q11からQ15は、学生自身の自己評価項目である。

Q11は、学生自身の「授業への熱意」を自己評価したものである。61%の受講生が「5」の評価をしている。「4」評価と合算すると約84%の受講生が「熱意を持って」授業に参加していることになる。授業にあまり熱意の持てない「1」および「2」と評価した受講生の比率を合算すると3%となり前回より良好となっている。

Q12「シラバス参考にした」への「5」評価は52%である。「4」評価が約23%なので合算して73%となる。「1」および「2」評価の比率は7%に低下し改善の動きがみられる。

Q13「授業を中座しない」、Q14「遅刻欠席はない」、「Q15「予習復習時間」は学生自身の「受講態度の自己評価」項目となっている。

Q13「授業中中座しない」で「5」評価したものは62%である。「4」評価が23%ある。合算すると85%になる。「1」評価と「2」評価を合算すると2%ほどになる。

Q14「遅刻欠席はない」は59%が「5」の自己評価をしている。「1」および「2」評価を合算した比率は5%である。何らかの事情で遅刻や欠席するのはやむをえないことであろう。ここでは遅刻や欠席の回数を質問していないのでその頻度については不明である。遅刻に関しては、前回調査に比し改善がみられるものの1時限のみでなく2限目以降にも見かけられるので、しっかりとした指導が求められる。

Q15「予習復習時間」で「5」と回答した者の比率は4%である。「5」評価とは、週当たり3時間以上の自習をすることである。1科目あたりの週当たりの予習復習時間で1番多いのは「ほとんどしない」であり(37%)、ついで「30分ぐらい」(27%)である。両者で64%。無回答者の比率が6%ある。1時間の講義に対して前後1時間の自学自習と15週の授業で「1単位」を構成する。本学の授業時間の1時限は90分であり、これが15回行なわれて「2単位」になる。つまり週に1回の授業科目であれば少なくとも講義時間外に180分の学習が想定されている。前回調査と同様な結果は学習時間の極端な短さを示している。こうした背景には家庭環境等によるアルバイト等により学習時間が削られており、本学アドバイザー制度等を効果的に利用し学生個々の事情に応じた対応をはかるとともに大学全体ないし、地域全体の課題としても捉える必要がある。

Q16「全体的評価」については、「無回答者」の比率が2%ある。また「わからない」が2%ある。これらを除いて算出した「5」評価が50%である。半数が好意的な評価をしている。「4」評価は28%である。両者の合計は約80%である。不満足(「1」

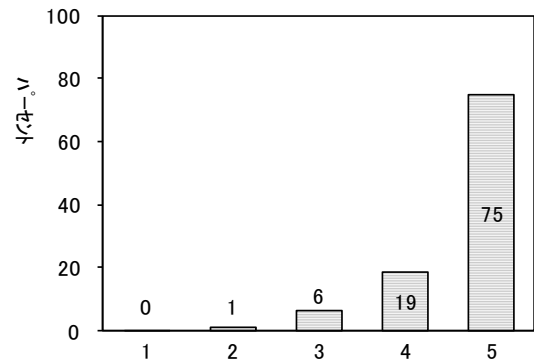
ないし「2」評価)なのが3%と前回調査に比し大きく改善している。

Q17「この先生の別の科目も受講したい」という評価項目は、担当教員への満足感を捉えている、と考えられる。「無回答者」が5%ほどある。これを除いた集計では、60%が「5」の評価を行い、18%が「4」の評価をしている。「1」評価と「2」評価を合算すると6%になる。

Q1授業の目的

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	6	.2	.2	.2
	2	24	.9	.9	1.1
	3	160	5.8	5.9	7.0
	4	505	18.4	18.5	25.5
	5	2034	74.3	74.5	100.0
	合計	2729	99.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	10	.4		
	合計	2739	100.0		

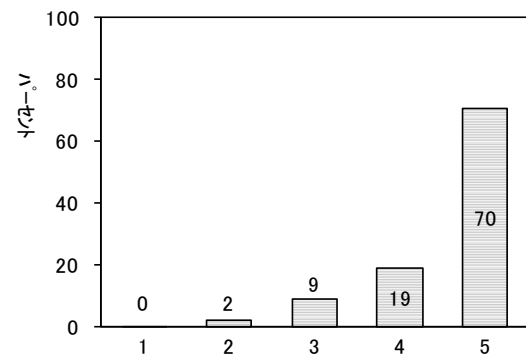
Q1授業の目的



Q2成績評価方法

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	9	.3	.3	.3
	2	52	1.9	1.9	2.2
	3	237	8.7	8.7	10.9
	4	510	18.6	18.7	29.6
	5	1922	70.2	70.4	100.0
	合計	2730	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	9	.3		
	合計	2739	100.0		

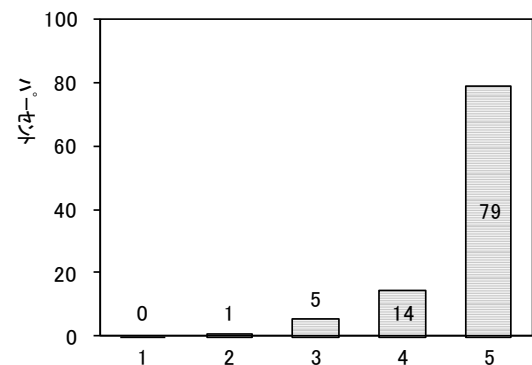
Q2成績評価方法



Q3先生の熱意

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	7	.3	.3	.3
	2	24	.9	.9	1.2
	3	145	5.3	5.3	6.5
	4	390	14.2	14.3	20.8
	5	2167	79.1	79.3	100.1
	合計	2733	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計	2739	100.0		

Q3先生の熱意

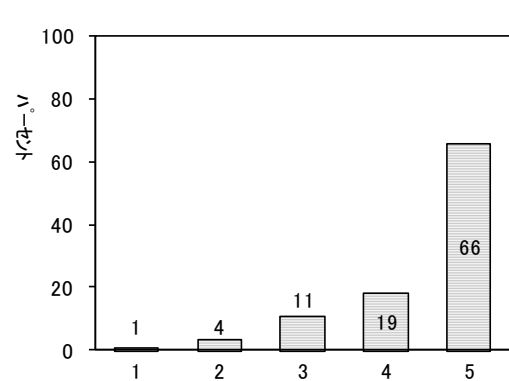




Q4わかりやすい

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	28	1.0	1.0	1.0
	2	97	3.5	3.6	4.6
	3	304	11.1	11.1	15.7
	4	504	18.4	18.5	34.2
	5	1798	65.6	65.8	100.0
	合計	2731	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.3		
	合計	2739	100.0		

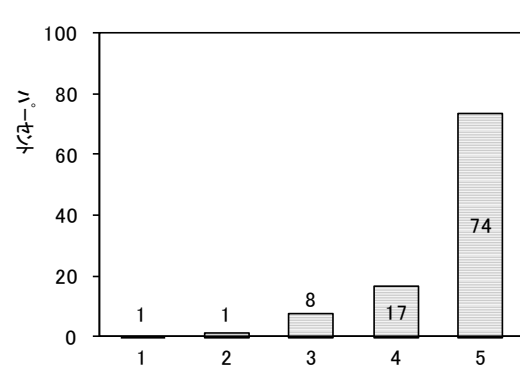
Q4わかりやすい



Q5準備よい

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	13	.5	.5	.5
	2	34	1.2	1.2	1.7
	3	217	7.9	7.9	9.6
	4	452	16.5	16.6	26.2
	5	2018	73.7	73.9	100.1
	合計	2734	99.8	100.1	
欠損値	システム欠損値	5	.2		
	合計	2739	100.0		

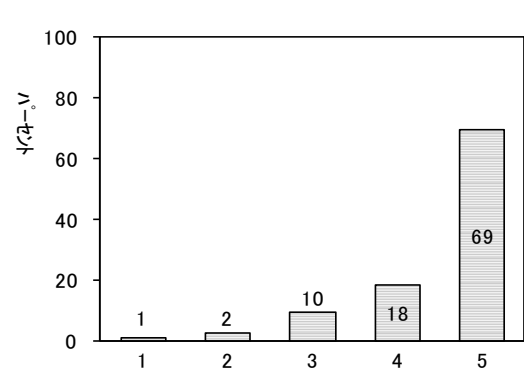
Q5準備よい



Q6理解興味の工夫

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	17	.6	.6	.6
	2	61	2.2	2.2	2.8
	3	260	9.5	9.5	12.3
	4	500	18.3	18.3	30.6
	5	1895	69.2	69.4	100.0
	合計	2733	99.8	100.1	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計	2739	100.0		

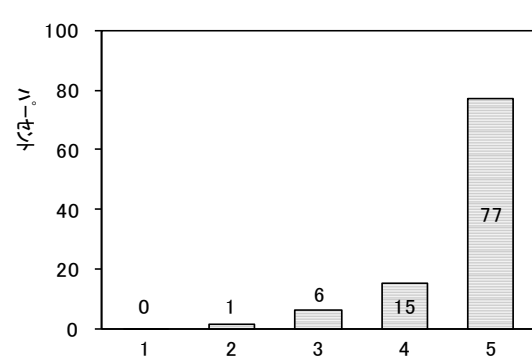
Q6理解興味の工夫



Q7時間どおり

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	10	.4	.4	.4
	2	31	1.1	1.1	1.5
	3	164	6.0	6.0	7.5
	4	419	15.3	15.3	22.8
	5	2109	77.0	77.2	100.0
	合計	2733	99.8	100.1	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計	2739	100.0		

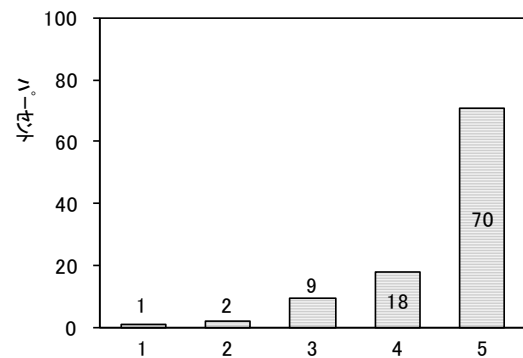
Q7時間どおり



Q8質問の機会

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	18	.7	.7	.7
2	58	2.1	2.1	2.8
3	254	9.3	9.3	12.1
4	479	17.5	17.5	29.6
5	1922	70.2	70.4	100.0
合計	2731	99.7	100.0	
欠損値 システム欠損値	8	.3		
合計	2739	100.0		

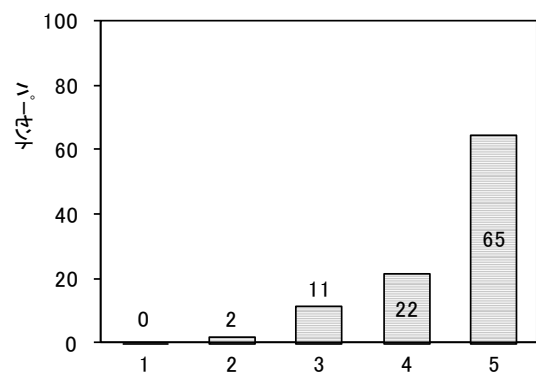
Q8質問の機会



Q9授業妨害へ対処

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	10	.4	.4	.4
2	51	1.9	1.9	2.3
3	305	11.1	11.2	13.5
4	593	21.7	21.7	35.2
5	1771	64.7	64.8	100.0
合計	2730	99.7	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	.3		
合計	2739	100.0		

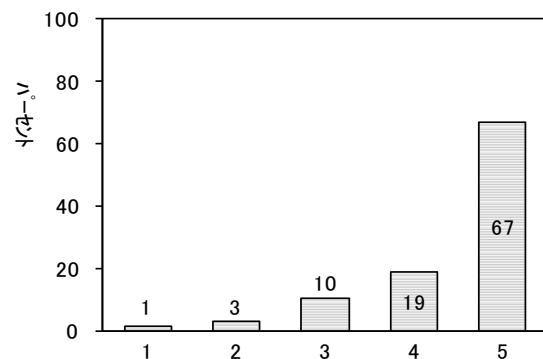
Q9授業妨害へ対処



Q10薦めたい

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	33	1.2	1.2	1.2
2	81	3.0	3.0	4.2
3	281	10.3	10.3	14.5
4	508	18.5	18.6	33.1
5	1829	66.8	67.0	100.1
合計	2732	99.7	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	.3		
合計	2739	100.0		

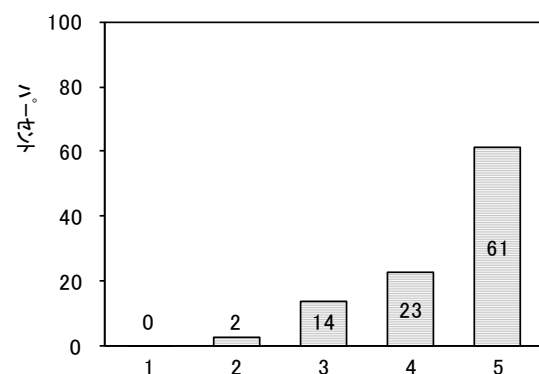
Q10薦めたい



Q11熱意を持って参加

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	10	.4	.4	.4
2	64	2.3	2.3	2.7
3	371	13.5	13.6	16.3
4	616	22.5	22.6	38.9
5	1671	61.0	61.2	100.1
合計	2732	99.7	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	.3		
合計	2739	100.0		

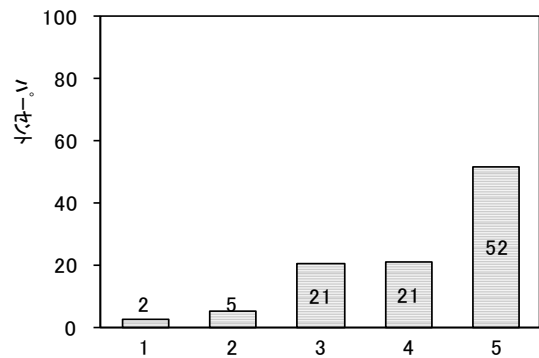
Q11熱意を持って参加



Q12シラバス参考

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	61	2.2	2.2	2.2
2	132	4.8	4.8	7.0
3	559	20.4	20.5	27.5
4	565	20.6	20.7	48.2
5	1412	51.6	51.7	99.9
合計	2729	99.6	99.9	
欠損値 システム欠損値	10	.4		
合計	2739	100.0		

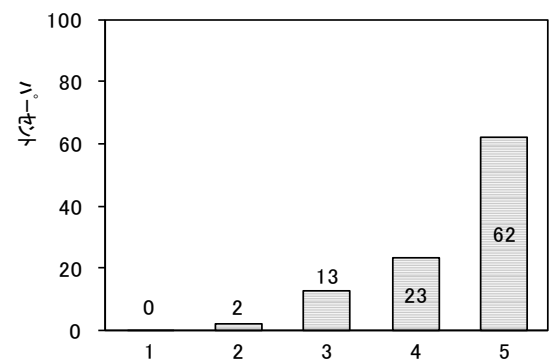
Q12シラバス参考



Q13授業を中座しない

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	6	.2	.2	.2
2	54	2.0	2.0	2.2
3	343	12.5	12.6	14.8
4	632	23.1	23.1	37.9
5	1699	62.0	62.2	100.1
合計	2734	99.8	100.1	
欠損値 システム欠損値	5	.2		
合計	2739	100.0		

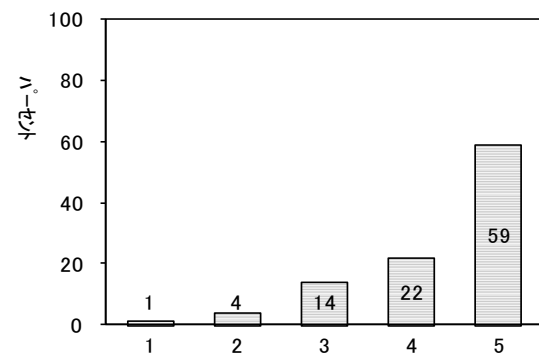
Q13授業を中座しない



Q14遅刻欠席ない

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	35	1.3	1.3	1.3
2	103	3.8	3.8	5.1
3	381	13.9	14.0	19.1
4	595	21.7	21.8	40.9
5	1607	58.7	58.8	99.7
合計	2721	99.3	99.6	
欠損値 システム欠損値	18	.7		
合計	2739	100.0		

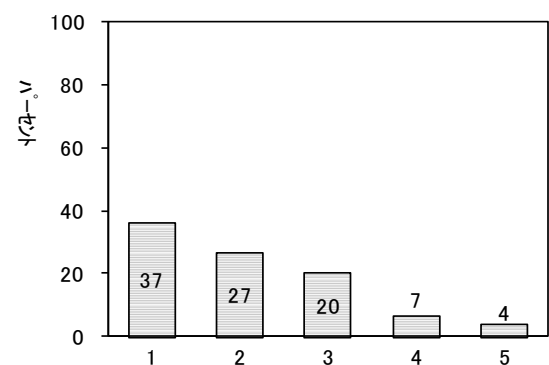
Q14遅刻欠席ない



Q15予習復習時間

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	996	36.4	36.5	36.5
2	736	26.9	26.9	63.4
3	552	20.2	20.2	83.6
4	186	6.8	6.8	90.4
5	103	3.8	3.8	94.2
合計	2573	93.9	94.2	
欠損値 システム欠損値	166	6.1		
合計	2739	100.0		

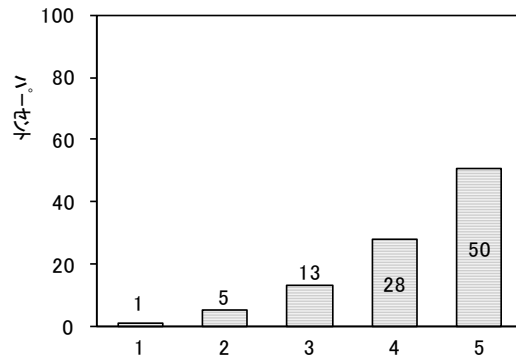
Q15予習復習時間



Q16全体的評価

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 0	53	1.9	1.9	1.9
1	19	.7	.7	2.6
2	135	4.9	4.9	7.5
3	348	12.7	12.7	20.2
4	756	27.6	27.7	47.9
5	1374	50.2	50.3	98.2
合計	2685	98.0	98.3	
欠損値 システム欠損値	54	2.0		
合計	2739	100.0		

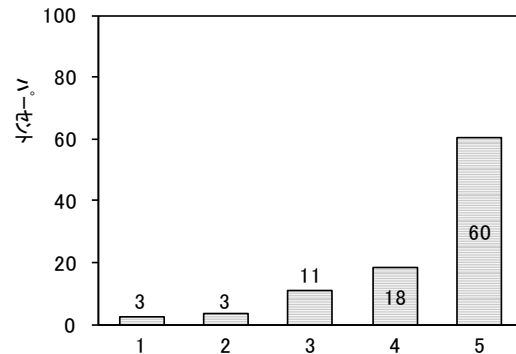
Q16全体的評価



Q17別の科目も受講したい

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	68	2.5	2.5	2.5
2	92	3.4	3.4	5.9
3	298	10.9	10.9	16.8
4	496	18.1	18.2	35.0
5	1645	60.1	60.2	95.2
合計	2599	94.9	95.2	
欠損値 システム欠損値	140	5.1		
合計	2739	100.0		

Q17別の科目も受講したい



### 3 自由記述による評価（改善点を中心に）

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善してほしい点、③授業方法についての感想・意見・印象に残ったことの3つの設問から構成されている。この授業評価の目的は、第一義的には、授業の改善の資料を得ることである。ここでは、②の改善点を中心に検討を進める。

「もっとわかりやすい授業をしてほしい」といった授業の進め方についての希望が多い。具体的には、「もっとゆっくり話してほしい」「説明が分かりにくい」「質問タイムを設けてほしい」「学生間でのグループ学習の採用」等が代表される。

これらは、教員としては誰もが第一に心がけている点であろうが、必ずしも十分な満足が得られていないとの意見が寄せられている。

授業の内容に関しては、「明確な授業の意図を示してほしい」「教科書を使ってほしい」「質問は解り易い表現にしてほしい」、が改善点として出されている。

授業の運営に関しては、「うるさい人に注意を促してほしい」や「声が聞きづらい」「黒板の字が小さくてわかりづらい」「休講の連絡は早めに」など、工夫を望んでいる声がある。授業時における私語は、受講者の人数や授業の進め方等、工夫すべき点が挙げられるが、同時に学生に対しての指導も肝要である。

その他、教員にとっては大学生として当然と考えていることが、学生自身にとって、そうでもない改善要望がある。「課題が多すぎる」「レポートが多い」などである。授業に対しあらゆるチャンスを掴んで教育の本源的な意味の浸透啓発に取り組んでいく姿勢が望まれる。

教授個人の特性に関しては、「もっと多くの生徒の話を聞いてほしい」「休講が多く」等の声がある。また、「一方的に話し、単調な授業展開は眠気を催す」等は、先生に一工夫して欲しいとの指摘であろう。

当該調査項目は、その内容においては自由記述形式なので、多種多様にわたっている。今後、精査するとともに、改善点について、「大学全体的な課題」と「個々の教員の課題」とに分けて（一部には複合している事項もあるが）、今後の授業改善を一層進めていくことが肝要である。具体的には学内に WG（教授法に関する研究会）等を立ち上げることも一考である。

## おわりに

2012年度前期における本学の授業は、各教師の授業に対する熱意・工夫等により、前回調査より総じて評価が上昇し改善の動きが見られた。5段階評価でいずれも4点を超えている。

調査項目での学生要因としては「予習復習時間」が少ないことが前回調査に続き、比率を低めている。特に注視される。「予習復習」をしない、という学生の現状がある。学生の修学環境を吟味するとともに予習復習をさせるための何らかの具体的な施策が立てられなければならない。

また、本学の原点である教育の目的・目標に帰るとともに、現在の大きく変革しつつある21世紀の地域社会、グローバルな社会で活躍する新たな「キリ学人」を再定義し、具現化・輩出することが喫緊に求められている。勿論、こうした中で新たな教授法も含め学内において継続的に改善する仕組み・取り組み等が肝要となる。

自由記述の部分については、数多くのさまざまな評価・意見が寄せられている。

これら評価・意見について、真摯に捉えるとともに相互に意見交換を行い、今後、大学全体として組織的に改善等に取り組んでいくことが喫緊の課題である。

## 学生による授業評価について

調査期間： 前期 7 月  
後期 1 月  
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。

率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

**PART I** 設問 1～17 について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそうは思わない

	評 価 欄
1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5 4 3 2 1
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5 4 3 2 1
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5 4 3 2 1
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5 4 3 2 1
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5 4 3 2 1
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5 4 3 2 1
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。	5 4 3 2 1
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5 4 3 2 1
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5 4 3 2 1
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5 4 3 2 1
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5 4 3 2 1
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5 4 3 2 1
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5 4 3 2 1
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5 4 3 2 1
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。	
5 (3時間以上)    4 (2時間ぐらい)    3 (1時間ぐらい)    2 (30分ぐらい)    1 (ほとんどしなかった)	
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。 5 秀 4 優 3 良 2 可 1 不可 0 わからない	
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5 4 3 2 1

科 目 名	クラス名 ( )			
学籍番号*				男
学 年	1	2	3	4
所属学科	1 英語科		2 保育科	
	3 英語コミュニケーション学科			
	4 科目等履修生			
入試区分	1 一般入試		2 推薦入試	
	3 A0入試			

\* (学籍番号) できるだけ記入してください。

**PART II** 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

1. この授業のよい点
2. この授業に改善してほしい点
3. この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
4. 学長へ（聞いてほしいこと）

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点																			
2. この授業に改善してほしい点																			
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。																			
4. 学長へ（聞いてほしいこと）																			